

元大清水高校、鶴岡監督が異動

「横浜桜陽高校野球部」監督をやられていた鶴岡英一先生が異動となり、藤沢工科高校（旧藤沢工業と旧大船工技の統合校）で教鞭をとられることになりました。昨年夏は横浜桜陽高校で好成績を残されただけに驚きの異動ではありますが、今後のご活躍を期待し祈っております。

濱田監督に第2子誕生 「藤沢清流高校」監督である濱田雅弘先生に昨年12月、第2子（女の子）が誕生されました。心よりお祝い申し上げます。

母校OB会ベスト8へ 野球部部長の鵜戸紘一郎先生の母校、県立熊本北高校OB会（熊本県）がマスターズ甲子園大会熊本大会でベスト8へ進出されました。3年前惜敗した九州学院高校OB会戦の悔しさをバネに甲子園大会出場を目指されています。微力ながら応援したいと思っております。

マスターズ甲子園 結果&戦評

2012年度のマスターズ甲子園神奈川大会予選が桜丘高校OB会、藤嶺藤沢高校OB会、日大藤沢高校OB会とのリーグ戦が行われました。今年度の大会より、「藤沢清流」のユニフォームを着ての参加となり、参加者全員が一気に若返ったように見えました。

予選初戦の桜丘高校OB会戦では、小刻みに点を取られ、打線も桜丘OB会投手陣に抑えられてしまい、2-7で敗戦となってしまった。

予選2試合目の藤嶺藤沢高校OB会戦では、序盤に2点を取られ追う展開に。投手陣が踏ん張るも、3度の得点チャンスもあと1本が出ずに0-2で敗戦。0勝2敗となり決勝トーナメントへの出場が厳しくなる。

予選3試合目の日大藤沢高校OB会戦。1回2回と走者を出すも得点ならず。3回にヒットとフォアボールからチャンスをつくり、ワイルドピッチで1点を先制。その後2点を追加する。その後も点を加え6点をとり試合を有利に進める。大清水・藤沢清流高校OB会先発は13期生熊沢。2イニングを3人ずつで抑え2番手の4期生加藤に継投。走者を出すも、0点に抑え前半を零封でリレー。後半先発の13期生若林は緩急を使った投球で2回を0点に。4番手には13期生坂上が登板。走者を出すも、落ち着いたマウンドさばきで0点に抑え、完封リレーで6-0で勝利する。この結果、試合前4点差以上で敗者復活戦進出の条件をクリアし、決勝トーナメント出場へ望みをつないだ。

6月3日に行われた敗者復活戦1回戦、対鶴見工業高校OB会戦。先頭の15期生石割が四球で出塁し、盗塁を決める。1死後、三番13期生坂上がライトへ長打を打ち、ランニングホームランとし2点を先制。3回には、相手投手の乱調につけこみ3点を追加し、試合の主導権を握った。大清水・藤沢清流高校OB会先発13期生熊沢は2回を0点に抑える。リリーフに上がった8期生岡本もまずは1回を0点に抑え前半戦終了。後半戦先発は、14期生相

原。2回を0点に抑え、8期生岡本が再度登板。守備陣の乱れで1点を失うも後続を抑え4期生加藤にリリーフ。今年度登板して0点で抑えてきた加藤だったが、鶴見工業高校OB会打線につかまり1点を取られる。しかし、最後は三振を取り試合終了。5対2で勝利し、次戦対大師高校OB会戦へと駒を進めた。

6月23日に行われた、敗者復活戦2回戦対大師高校OB会戦。大清水・藤沢清流高校OB会先発13期生の熊沢は、初回不安定な立ち上がりを攻め込まれ、1点の先制を与えてしまう。しかし、2回は立ち直り、2番手登板した26期生三浦、後半先発の14期生相原、4期生加藤と大師高校OB会打線を0点に抑える。

大師高校OB会投手陣に抑えられていた打撃陣だったが、後半1番の13期生小松のヒットと盗塁などで1死3塁とすると、3番13期生坂上の打席でヒットエンドランを決め同点に追いつく。迎えた8回、先頭の9番4期生加藤のヒットから1アウト2・3塁のチャンスを作る。3番13期生坂上が敬遠され満塁策を取られるが、迎えた4番13期生武井が、ライト前にヒットを打ち1点を勝ち越した。この時点で規定により時間切れとなり、サヨナラ勝ちとなり同日3試合目の決定戦に駒を進めた。

同日、2試合目には山北高校OB会対横浜南高校OB会戦が行われ、山北高校OB会が10点以上の点差をつけ、横浜南高校OB会をくだし、大清水・藤沢清流高校OB会対山北高校OB会とで敗者復活決定戦が同日12時50分より行われた。

大清水・藤沢清流高校の先発は13期生熊沢。2回を0点に抑える。2番手には26期生三浦が登板するが、山北打線の猛打につかまり、また、守備陣の乱れもあり9失点を取られてしまう。打撃陣は山北投手陣に抑え込まれてしまい、3点をかえすも追いつけず3対9で敗戦となった。

この敗戦により今年度のマスターズ甲子園神奈川大会は終了し、6試合3勝3敗という戦績であった。